志望理由書対策講座

　志望理由書で書かなければならないことは当然のことですが、あなたの志望理由です。あなたがどれだけの意欲と将来に対する目的意識を持って、学生生活をがんばれるか、そのことを文章化しなければなりません。
そこでまず、1点目。
　本学（本校）は何を学ぶ学校なのか。あるいはどんな資格をとってどんな職業を目指すところなのか。必ずその目的があります。したがって、あなたが、なぜその目的を目指そうとするのか、それが第一点目の志望動機です。（ex. なぜ、経済学を学ぼうとするのか。なぜ、看護師の資格を取りたいのか。）単にきっかけだけを挙げてもだめです。
そして、2点目。
　その目的を達成できる学校は多々あるはずですが、その中で、なぜその学校なのか。それを、自分の目的意識や、将来の理想と合わせて書けるかどうか、これが求められています。（ex. 経済学部は多くの大学にあるが、なぜ○○大学の経済学部でなければならないのか。なぜ、この学校で看護師の資格を取りたいのか。）
そのためには材料を集めることが必要です。
そこで学問に対する理解を深めること。
　そもそも「経済学」って何？という状態ではどうにもなりませんね。本を読む、インターネットで調べてみる（もちろん信頼のおけるサイトを活用すること）、新聞の記事を集めてコメントを書いて整理してみる、など、さまざまな手法を用いてアプローチしよう。
　そうして、その学問が、現代の社会においてどのような意義をもつのかについても説明できるしてほしい。たとえば、「農学部」を目指そうとするなら、これからの日本、あるいは世界において、食糧問題は人類の死活問題であるとすれば、そこに活路を拓くことができるのがまさに「農学」であり、その農学を研究することで人類・社会に貢献したいという大きな志が、学問　志望の最大の理由であるわけです。
次に学校に対する理解を深める。
　大学案内のパンフレットに始まり、オープンキャンパスで見聞してきたこと、あるいはホームページで知った、ユニークな教授や研究、また、メディアを通じて紹介された大学の側面など、これこそが自分にとって唯一の大学だというものを知るようにしよう。少し聞きかじっただけではなく、様々な手段を駆使して自ら調べ、志望分野の教授の著書を一冊くらい読んで、それを自分の言葉で語れるようにしよ

う。そうやって理解を深めた大学の、他大学にはない、かけがえのなさこそが志望理由にはあるはずです。「家から近い」とか、「偏差値が自分に合っている」とか、そんな安直な理由が求められているわけではありません。あくまでも、何をどんなふうに学びたいのか、学びに対する希望があって、それが実現できる大学であるという観点で書かなければなりません。
一方、自己理解を深めることも必要です。
　客観的に見て、自分はどんな人間なのか。その学問になぜ興味をもっているのか。何を究めたいのか。将来どんな職業に就いてみたいのか、どんな大人になりたいのか。最初の手がかりは、高校　時代の自分を振り返ってみること。勉強、クラス活動、部活動等でがんばってきた自分を思い出してみることから始めよう。
こうして材料をそろえた上で文章の構成を考えます。
　どのような文章構成にすれば伝わりやすく、わかり易いものになるのか、まず、文章全体の大きな骨組みをしっかり組み立てることが大事です。この骨組みさえしっかり組み立てることができれば、あとは楽に書けますが、これがしっかりしていないと、自分が何を言いたいのか分からなくなって途中で行き詰まってしまうことになります。
　その上で集めておいた材料の中から、自分が伝えたいことに繋がるものを選び取り、文章化していきます。
　そして、書き上がったものを何度も読んでみて、意図したとおりの文章になっているか、自分が伝えようとしたことはきちんと伝わっているか、大きな流れから見直します。その上で、表現のまずいところや誤字脱字なども含めて、もう一度全体を見直します。
　第三者にも読んでもらって、自分が納得のいく原稿が仕上がったら、清書にかかります。清書するときには集中力が必要ですから、静かな場所で、まとまった時間をとり、書きそこないのないようにしあげよう。
志望理由書にとって大事なことは
　あなたにしか言えないことを述べること。
　　本当に、相手の心に響く「志望理由書」は、自分が経験して、その中から自分が感じ、自分の頭で考えたことを、具体的に自分の言葉で語っているものです。パンフレットの抜き書きなど、レポートの「コピペ」のような文章は、相手に失望を与えるだけです。一所懸命に汗をかき、考えて考えて、考え抜いて作り上げましょう。

　次に二つの志望理由書を記します。あなたはどちらがいい志望理由書だと思いますか？考えてみてください。

★志望理由書①

私は将来、地方公務員になることを目指しています。そのためには、地方のコミュニティについて学んでおくことが大切だと思い、貴大学法学部に進学を希望します。

地方公務員を目指すきっかけになったのは、学校の総合学習でのことでした。私が住んでいる町の魅力について調べ、自分たちの町が好きかどうか校内でアンケートを取ったところ、「田舎で何もないから好きでない」「将来も住みたくない」という声がたくさんありました。故郷を地元の若者が愛していないという、この結果を見て、私はとても驚き、悲しくなりました。この経験から地域の魅力をいかにして取り戻し、県外の人にも関心を持ってもらうことができるかを大学で学んで、地元の人にも地域への誇りを取り戻してほしいと思うようになりました。

日本は全国的に地方の高齢化率が高く、第一次産業の後継者不足という問題を抱えていることを授業で学びました。その背景には、若者が都会へ流出するという現実があり、「地方消滅」という言葉も知りました。私の住む県も例外でなく、同じような課題に直面しています。私はこうした状況を食い止め、地域再生に取り組みたいと考え、県庁で働きたいと思っています。

貴大学では、地域に密着したプロジェクトが確立しており、住民の声をじかに聞き取れることが素晴らしいと思いました。様々な行政機関と協力し、政策決定に必要なフィールドワークやインタビューができる体制も出来ています。オープンキャンパスに行ったときは、学生と先生の距離が近く、親密な雰囲気を感じました。学生の方にいろいろと質問しましたが、みんな親切に答えてくれて、とても好感が持てました。施設も充実し、キャンパスや学生の雰囲気も素晴らしい——貴学に入学することで、私の目指すものに近づいて行けることを確信した次第です。

★志望理由書②

私は将来、自分の住む地域の活性化に貢献する仕事に就きたいと考え、そのための調査を行った。「駅には1時間で66人、コンビニには1時間で130人」これは私が市内の駅に来た人数とコンビニに来た人数を曜日、時間帯を同じにして調査した結果である。私の住む市では、駅を中心とした市街地整備が進められているが、駅だけでなく近接する商店街まで閑散としている。その中でコンビニがこれだけの人を集めているという事実に私は驚いた。

コンビニを地域コミュニティの活用化に利用できないか。地域コミュニティの中核として公民館などがあるが、「イベントを開催しても人が集まらない」「管理が大変」など、効率よく機能しているとは言い難い現状である。一方で、コンビニの力は侮れない。24時間営業であること、全国規模の物流ネットワークで結ばれていること、継続的に人が集まる施設であることなど、地域拠点として十分な存在感を持つ。

私は、コンビニを地域コミュニティの核として位置づけていくことが無理なく持続可能な地域活性化を実現すると考える。実際、全国のコンビニを調べてみると、地域の関連商品を販売している事例や株式会社が運営する介護相談窓口を併設して自治体等地域関連情報を提供するサロンスペースを設置している事例など、地域密着型コンビニとして運営している店舗も至る所で出始めている。

こうした考えのもと、市内の大手コンビニチェーンの店長に取材をして回ると、同様の構想を思い描いている店長もいた。しかし、現実では様々な障壁により実現困難だという。コンビニの本部の許可がおりない、土地の買収が難しい、行政や地元企業と連携したくても思うように繋がることができないなど、地域経済と行政の連携、企業形態に高い壁を感じた。

私は、企業と地方行政の連携、地域企業の経営や法務について学びたい。貴学は、「地域発展」に必要な企業法務という主専修プログラムと地域社会連携専修プログラムを副専修プログラムとして学ぶことができ、私にとって理想的な環境である。貴学での学びを活かし、将来は地域と企業、行政が連携する社会の礎を築きたい。